

## 四国土木紀行 No.5

# 町内トンネル

～地山がなくなり構造物だけが残る珍しいトンネル～

徳島県最南端の町、海陽町には、知る人ぞ知る珍しいトンネルがあります。そのトンネルの名前は「町内（まちうち）トンネル」と言い、JR牟岐線海部駅のすぐ北（徳島起点79k139m71）にある、全長44mの非常に短いトンネルです。

写真1を見て分かるように、現在のトンネルには山がありません。山がないのになぜトンネルがあるのでしょうか。このトンネルはいったい何のために作られたのでしょうか。どうしてこのような形で残っているのでしょうか。

町内トンネルは、昭和48年5月に竣工し、牟岐～海部間の開業にあわせ、昭和48年10月に供用開始となりました。開業当時は通常のトンネルと同じく山があったのですが、周辺の宅地造成の関係から、昭和51年に現在の形状となったそうです(写真2、写真3)。

通常のトンネルとして活躍したのはたった3年しかありません。細かい事情は分かりませんが、宅地造成がもう少し早くに行われていれば、珍しい町内トンネルは生まれなかったことでしょう。

町内トンネルの生い立ち、写真については四国旅客鉄道株式会社様にお世話になりました。お忙しい中、迅速に対応して頂き誠にありがとうございました。この場を借りて厚く御礼申し上げます。



写真1 海部駅から望む町内トンネル（現在）



写真2 地山が残っていた当時の町内トンネル



写真3 地山が残っていた当時の町内トンネル